

新年あけましておめでとうございます。

冬は厳しいといわれながらも瀬戸内の冬は明るく暖かです。私も今年は久方ぶりにゆとりのある正月を迎えることができます。ここ数年、神戸に大きな災害がないためだともいえますが市政が落着いてきたからでしょう。

昨年、暇をみつけて、随筆集『あじさいの心』をまとめました。何時もむずかしいことばかりいっていますが、本当は、人間味あふれた文化人?であるというイメージづくりを狙ったのですが、市政を扱ったテーマも多く、かえって「まじめ人間」の印象をひろげてしまつたのではないかと悔んでいます。でも、「君に、そんな文才があるとは知らなかつた」「市長さん、案外、心根はやさしいのね」などいわれると、心よい胸の高ぶりを感じ、やっぱり苦労して出版した甲斐があつたと満足しています。



宮崎 辰雄
^神戸市長▽

☆私の意見

あじさいの心

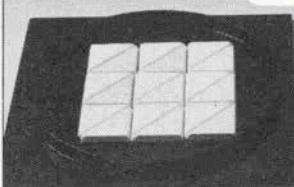
市政でも、これからはこのようなくとりと心のふれあいを探つていくような行政をつくりあげていきたいと思っています。もちろん行政は、財政のやりくりや都市づくりへの着想が基本となります。幸い、財政は全国でも珍しい都市経営の先見性を發揮して安定していますし、都市づくりでも、「神戸のまちは、最近、緑が多く美しいなつた」とよくほめられるように住みよさをそだててきました。

そのような下地の上に、手づくりの市政を心掛けていきます。市政も、子供をそだてるとか、芸術品をうみだすのと同じで、市政をあずかる人の個性が反映するといえるのではないでしょうか。^{神戸市政をあずかって三十}年、近ごろになって、やつと間をとつて市政をみつめる余裕がどこか生れるようになりました。これも年期のなせるわざでしょう。

市政といつても、市だけががんばってみても何もできません。市民のみなさんの理解と協力に支えられて、はじめて“生きた”行政ができるので、私は、そのためのコンセンサスづくりに今年もじっくりと取組みます。

寿御千菓子

新春をことほぐ新年菓
それぞれの風味も
めでたく
久しく御愛顧を
賜つております。



干支「巳」5客 ¥500

御題「海」3客 ¥800

——創業80周年——



神戸月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎ (078)391-2412

美術古董 刀剣書画

李朝草笛 五五〇、〇〇〇円



鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一ヵ月仕上

是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀古骨 美術董

円650

元町美術

TEL 078-351-0081

イスラエルの旅

伊藤 慶之助

（画家・春陽会会員）



ビブロスにて杉村春子さんと

レバノンの国境を南に越えるとすぐイスラエルに接しているが、この国境附近にパレスティナ・ゲリラの集落があつて、たえず紛争が起きていて、レバノンからイスラエルに入国するには、ベイルートから対岸のキプロス島に渡り、船でイスラエルに入国するのが安全である。イスラエルのエルサレムはキリストの伝説とともにからんで、特異な詩情をふくんだ風景である。キリストはゴルゴダの丘で磔刑になつたが、その磔刑された場所に聖墳教会が建てられてゐる。旧市街のほぼ中央で、このゴルゴダに登る細い小路をキリストは十字架を負わされて、あえぎあえぎ上つて來た。今「悲しみの道」として石段もそのままに残されている。

ここを東に行くと、城壁に閉まられたエルサレムの神域に出る。ヘロデ王の第二の神殿の遺跡もこの神域にあり、有名な「嘆きの壁」は神殿の西側の岸壁である。全てのユダヤ人がこの壁に手を触れ、この壁に涙を流すことによつてエルサレムの回復を祈る場所としてユダヤ人の信仰のメッカとなつてゐる。シャガールも、ユダヤ人として深い愛情をこめて、この嘆きの壁の前で祈る人々の姿を、油絵の大作として描いてゐる。この神域の南の小高い丘が「シオンの山」で、キリストが使徒たちと最後の晩餐をしたのは、今、ダビデの墓といわれる小さな聖堂の二階の広間だと伝えられている。左に道をへだてて、マリアの墓という聖マリア教会があり、オリーブの樹林と岩のドームのイスラム建築の円い屋根が夕陽を受けると、静かな美しい雰囲気に包まれる。

レバノンは中近東では唯一の通貨自由国で、金融制度が発達しベイルートには西欧諸国、アラブ、東洋、アメリカの商社が軒をならべてゐる。ソニーのネオン

ロデ王の第二の神殿の遺跡もこの神域にあり、有名な「嘆きの壁」は神殿の西側の岸壁である。全てのユダヤ人がこの壁に手を触れ、この壁に涙を流すことによつてエルサレムの回復を祈る場所としてユダヤ人の信仰のメッカとなつてゐる。シャガールも、ユダヤ人として深い愛情をこめて、この嘆きの壁の前で祈る人々の姿を、油絵の大作として描いてゐる。この神域の南の小高い丘が「シオンの山」で、キリストが使徒たちと最後の晩餐をしたのは、今、ダビデの墓といわれる小さな聖堂の二階の広間だと伝えられている。左に道をへだてて、マリアの墓という聖マリア教会があり、オリーブの樹林と岩のドームのイスラム建築の円い屋根が夕陽を受けると、静かな美しい雰囲気に包まれる。

塔も町のあちこちで目につく。海岸には近代建築のアパートやアラブ石油の成金の別荘がたちならんでいる。ベイルートの北郊、地中海に張りだした岬に小モナコの雰囲気のカジノがあるので、杉村春子さんを誘つて一かく千金を夢み出かけたが、ルーレットには手を出さず、フレンチ・カンカンのシヨーを見てホテルに帰つた。カジノから海岸を少し走ると、ジエペイルという小さな村があり甘いオレンジの産地として知られている。古代ビブロスと称され、七〇〇〇年前の住居跡が最近発掘されて世界の話題となつてゐる。紀元前三〇〇〇年にはイシス神を祀つた神殿、城門などが建設されており、ローマ、ビザンチン、十字軍の諸遺跡も発掘されている。ベイルートからレバノン山脈を東に向つて入ると、バールベックの遺跡がある。紀元二世紀から五世紀頃の遺跡であるが、復旧されたバッカスの神殿、青空にくつきり浮き出したジュピター神殿のコリント式列柱など、美しいマツツの風景が見事である。このフェニキアでは、農作物の豊作を祈る行事として町の娘を一週間ほど神殿に座らせ、男性に処女を開放させ、法律をつくつて、古代亮春国家の汚名をさせられ、ローマ法王からも再度禁止の命を受けている。

スリランカの旅

川瀬 喜代子
(にじむら 喜代子)

スリランカの旅

スリランカという国ご存知ですか？ セイロン紅茶で知られています。

私は紅茶視察団として十一月九日、秋寒い日本を発ち約十三時間後、灼熱のスリランカの首都コロボに到着しました。



キャンティでの筆者

翌朝早くスリランカの中央部にあるキャンティへ出発。この街は西欧の支配に最後まで抵抗したシンハリ王の本拠だった所で、仏教の歴史を記した寺院があり、仏教の中心地として伝統の美しさの滲んだこの旅行の中で一番印象深い美しい町でした。この町で紅茶工場見学、買付けと旅行の目的も果して、更に奥地のシギリヤへ。とにかくその後アヌラーラーラ、ウイルバトウ、ネコンボとスリランカを半周したのですが、その間ただだ椰子の林だけ。何ひとつない單調な景色。時々道に出てる堀立小屋で椰子の実を買い、汁を廻し飲みしたり、モンキーバナナを食べたり、トイレ休憩もままならずにはバスはひたすら走るのみ。その單調な景色の中に突然ギヨットの車両が遙かに聳えていました。それがシギリヤのライオノロックです。五世紀に戦乱を逃

アヌラーラーラで一泊しましたが、ここはマラリヤの危険があり日本から持参の蚊取線香の煙にむせびながら一夜をあかしました。翌日、楽しみにしていたウイルバトウの自然動物園へ。バスからオボロジープに乗り替え、振り落とした。それがシギリヤのライオノロックです。五世紀に戦乱を逃

れた王が隠家とした所で、遙か八十三メートルの頂上の洞窟に故

郷の王妃や王女を偲んで書いた壁画が千五百年たった今日、色鮮やかに残っているのを見た時は、何だかタイムカプセルに乗って千五百年前に返ったよう。心臓が破裂しそうな思いで若い人に負けるものかと登った甲斐がありました。

この旅行で一番美しいといわれていた印度洋に面したネコンボは百年前に返ったよう。心臓が破裂のコロンボに帰り、いよいよ女性のコロンボを訪れ、夜遅くつき、早朝出発、振り出しお正月をして溜息をつきながらの一番の関心事。宝石店を訪れ、素晴らしいキャッサウイ、ブルーサファイア、ルビーなど、どこのトップレディの胸を飾るのかと、目を出ると、また裸足の子供たちがワーッと寄ってきて、口々にボールペン、ライターと叫びながら取り囲む。抱かれた赤ん坊は皆丸裸。それでも彫りの深い美しい顔や純朴な瞳、無心に赤ん坊までも手を差しのべている姿をみると、日本の子供達の顔を思い浮べて思わず涙がにじみます。美しい宝石とこの子供達、何とも割り切れない気持です。私のこの旅行の一番の目的であるカブチノコーヒーに入れるシナモンスティック(ペトナム戦以来日本で手にはいらなくなつた)の個人契約も無事済て目的は果されました。しかし日本が総てに恵まれ幸せかを、しみじみと日本の有難さを感謝した事です。

皿のようにして走った五時間はさすがに皆ぐつたり。一同よほど猛獸にこわがれたのか、一向に大物は姿をみせず期待はずれの一日でした。

文豪「魯迅」

陳徳仁

(神戸華僑總会文化部長)



待ち兼ねていた「魯迅展」が、いよいよ一月十四日より神戸そぞうで開かれることになった。

思えば昭和四十一年の五月「紅樓夢展」が中華人民共和国の出展で大阪そぞうで開かれたが、「紅樓夢」が出現したのは十八世紀の中葉、中國王朝最後の清朝の最盛期とも言われた乾隆年間だった。物語りは貴公子賈宝玉と美女林黛玉の悲恋を中心、貴族の盛衰を叙した長篇小説ではあったが、出展者はこれを絵物語りに要領よく纏め、參觀者が絵と文を追って歩いているうちに当時の貴族達が使った豪華奢侈な衣裳や日用品、



1936年の魯迅

そして、當時にありがちな身売り契約書、科舉（中國の封建時代に行われた官吏登用試験）の試験日にカシングのため着用していた肌着（四書・五經等の重要なところを白布の肌着に書き写してあるもの）等々、現代から見ると珍奇なものではあるが、私はなんともいえない苦痛を胸に感じつつ見終つたことを覚えていた。

かくして、この「紅樓夢」展は參觀者の受取り方こそ違うが、非常に充実した展示会であったので參觀者をして大いに学び得たといふことでは大成功だったと思う。

だが、このたび開かれんとしている「魯迅展」は、中国人、日本本に留学した、近代中国の生んだ人を問わず、きっと少なからずの感銘を參觀者に与えると思う。

なぜなら、魯迅こそかつては日本に留学した、近代中国の生んだ

憂國憂民の志士、偉大なる中国の文学者である。そして、毛主席が中華人民共和国を樹立した大政治家であるように、魯迅はその原動力となつた中国の人民の魂を育てた精神の改革者であるからである。

かつて宋慶齡（孫中山先生夫人・中華人民共和国副主席）が、魯迅の「阿Q正伝」を読んだとき、涙が止まらなかつたと言うが、それは宋慶齡が阿Qという一人の人間の中に中国民族の悲哀と悲運を見い出したからである。この憐れな阿Qこそ、中国二千年來の陋習を身につけた中国の多数の労働大衆であり、多年來、権力者や搾取階級に虐げられそれに屈服し、卑屈になることが生きるための唯一の道だと思いつく人間であつて人間でない人間になりつつあつたからである。

魯迅が仙台の医学専門学校で見た幻灯に写しだされた衰れな同胞も、実は阿Qであつたのだ。ここで魯迅は初めてメスをペンに換え肉体の医者になるよりも、魂の医者にならんと決心した。

魯迅の全てを知るために魯迅全集を読破してもそれは不可能だろう。だが、現代の中国を知るためにも魯迅を知ることが大切だと思う。この観点からしても神戸の魯迅展は神戸市民や華僑にとっても大きな意義がある。

木彩会 遊心会

昭和三十四年七月から毎月二回

木曜日の午後二時から、日本画家 山本大慈さんの指導のもとに「日本画を習う会」を開いている——

と、昭和三十四年の「神戸商工会議所報」にある。

この木彩会発足当時の会員十三

名。神戸商工会議所議員及びロータリー議員有志によるメンバーで構成され、まだ木彩会の名前はなかった。

昭和四十六年の「神戸商工だより」に「木彩会のこと」として山本大慈さんの稿がある。少し引用してみると——

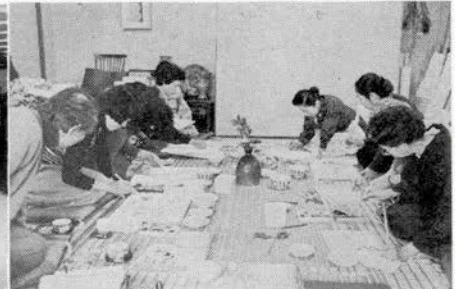
「絵を習いたい希望者を集めるから指導の方を引き受けてくれないかとの話が、故人となつた久保佐一さんからあつたのは随分前のこと、十二、三年にもなりましょうか。金井前知事がまだ副知事時代で、しばらく参加しておられました。(中略) みな勝手な絵を描いて楽しんでおられます。(中略) 上手、下手は問題でなく、仲々面白い絵ができます。上手に描こう



左が指導する山本大慈さん(木彩会)



第6回木彩会・遊心会日本画展(国際会館)



山本大慈さん宅に集う遊心会のメンバー

こんな姿勢で指導する山本大慈さんを師とするもう一つの集いが遊心会であり、現在のメンバーは二十名。女性ばかり。山本大慈さんのアトリエに月二回通つてくるわけだが、とつても和気あいあいな雰囲気。

木彩会・遊心会ともに各メンバーが立派な画帖をもつてゐる。その画帖に山本さんが月に一枚ずつ手本を描く。それが楽しみのひとつでもあるようだ。師を同じくする二つの日本画を習う集いが、昭和四十六年に初めての展覧会を生田神社えびら会館で開催した。それから昨年の十一月で六回目。絵の出来映えは毎年成長する。七夕のようにして年に一度出合う二つの集いが互いに批評し合いながら山本大慈さんのいう各人の持ち味を生かした絵ができるがつていくのである。

木彩会
兵庫区浜辺通五丁目一―一四
神戸商工会議所内
遊心会
東灘区住吉町赤塚山一八七一
山本大慈方

（八一）一七六

として手本そのままのものを描こうとするからやりにくいので、自分の見たまま、感じたまま、巧拙を問題とせずに描くところにアマチュアとしての面白さが發揮できるのです。忙中閑、ひと時を何事も忘れ、絵筆に遊ばれるのもまた楽しいことだと思います」

謹賀新年

今年もどうぞよろしく

昭和52年元旦

● ビスケット

¥700・¥1,000・¥1,200・¥1,500・¥2,000・¥2,500・¥3,000



ユーハイムのお菓子は、純正材料をたっぷり使い、それぞれの持ち味を生かして作られています。お子さまはもちろん、味にうるさいパパにも、そのおいしさがよろこばれています。

ドイツ菓子
U-Haim's
ユーハイム

本 店 神戸市生田区下山手通2-31
三 宮 店 神戸市生田区三宮町3-15
さんちか店 神戸市生田区三宮町1-1

TEL (078)331-1694
TEL (078)331-2101
TEL (078)391-3539

MAKE UP WITH ROYAL

頌 春

欧洲からやってきた
世界の逸品を取り揃えて
お待ち申し上げております



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎ (321) 1212代表
新年は6日より営業致します。毎水曜定休。

三宮店・さんちかタウン ☎ (391) 1874~5
正月は1・2・18・19日がお休みです。

新しい豊かさを求めて

坂井 時忠 △兵庫県知事▽

え・伊藤慶之助

去年の正月であった。

各新聞の論調は一齊に「戦後止まることを知らなかつた高度経済成長は、豊かな物質生活をもたらしたものの、その反面人間の精神にかかわる問題ではさまざまなかげりや弱点をさらけ出した。いまこそ真的しあわせの何たるかを問い合わせし、新しい価値観に支えられた人間社会を創らねばならぬ」と書き立てた。

そして二年。「物から心へ」、「量から質へ」の転換は、流行語のようにさえいわれたが、果して世の中はそう変つただろうか。いや、今日の低迷

つづける不況風の中では、むしろ金と物にからむ欲望はかえつてつのつていくうらみさえするのである。

この際、もう一度お互い自らのくらしの中に思いをいたし、いち早く過去の生活軌道を修正し、新しい社会づくりを急がないと、もはや取り返しがつかなくなるのはなかろうか。これは単なるお説教や精神訓話ではなく、人間の生死が問われている生々しい問題として自覚することが必要である。

私はそんな思いを強くするがゆえに、昨年春、



県行政全般を文化的視野から見直し、県民一人ひとりの生活向上を精神文化の充実に求めようと文化局を発足させた。

その発足にあたって、国立民族学博物館長である梅棹先生はか十数人の専門家の方がたからご意見を伺ったが、いずれも「文化行政は遊びの行政であつたり、余力があればやるといったはみ出し行政ではない。文化行政こそ今日的な、しかも行政全般の基盤となるべきものでなければならぬい」とのことであった。

しかし、今日でも巷間には文化行政なんてぜいたくで優雅な行政だという批判の声を聞く。これは文化というと、ヒマや金がかかるもの、すぐれた芸能を見たり聞いたりすることくらいに受け取られ、私たちの生活には縁遠いものだとする考え方方がまだ多いからではなかろうか。文化に対する考え方が、そんな次元で論議されるかぎり、文化社会への道は日暮れてなお道遠しの感を深くせずにいるのである。

文化を英語でカルチュアといふ。その語源は「耕す」とあるように、自らが心の土壤を耕すといふ意味では、文化は自らが行う精神開発であり、また、私たちの住んでいる郷土の土や水や空気——そのおかれた生活環境の中での人間の生き方そのものであるといえよう。従つて文化は、県民の自主性によってのみ高められるものであつて、行政はそのお手伝いの役目でしかないと心得ている。

しかし行政自らもあらゆる施策を文化的視野に立つて見直し、従来ややもすれば機能性や合理性重点の姿勢から地域性や芸術性を考え、心あたたかく、

かい人間社会をつくることに努力せねばならないと痛感している。

ところで昭和五十二年度は、自立と連帯による生活文化社会実現への実践活動を活発にすすめたことと考えている。

これは一昨年策定した「二十一世紀への生活文化社会計画」を生活のなかの身近な問題としてとらえ、その一つひとつを県民参加によって実り多いものにしていこうとするものである。と同時に、昨年実施した「県民会議」や「緑の回廊の祭典」などを通じて芽生えはじめてきた「自立と連帯」の精神をさらにひろげ、行動に移そうとするものである。

それはひとつには、県下各地域におけるすぐれた文化土壤を掘りおこし、これを育て、創造していくなかで、心豊かな人間性や風土環境をつくるとする「ふるさとの文化運動」であり、また衣食住など、家庭生活そのものの見直しのなかで新たな豊かさを発見しようとする「くらしの文化運動」もある。

さらにトリム健民運動や健康のカギ運動などもこの際総合化して、心身ともに健やかな県民運動として推進したいものと願つてゐる。

どうか大方のご意見やご批判、さらには一層のご協力を賜れば幸いである。



坂井 時忠

活動狂

原

清

△朝日放送社長▽



五十数年前に活動狂たちが出ていた映画雑誌
上左から「ファンの叫び」(大正11年7月)、
「スクリーンとファン」(大正12年8月)、
「映画」(大正12年12月)、下は「セルロイド・プレイ」
(大正12年12月)

私は活動狂だった。仲間も多かった。もつとも活動狂といつても、当節はやりのヘルメットや鉄パイプで暴れまわる活動家とは全然違う。大正から昭和のはじめにかけて、映画を愛し映画を中心にお自分の生活を回転させていた連中のことを活動写真狂、略して活動狂といった。

なにしろ当時の日本では、まだ映画は必ずしも健全娯楽として認められていなかった。ほとんどの中学校、女学校では映画館への出入りは禁止され、場内の客席も男、女席が分けられていた。不良青少年が出たり、泥棒が捕えられると、きまつたように新聞は「活動写真を見て堕落し……」という本人たちの自白をのせた。

そんな時代に、ひたむきに映画を愛好し、映画芸術を論じ、映画事業の向上発展を討論する活動狂グループがいたのだから、今から思えば、むしろ痛々しいまでに純情で愉快な仲間たちだった。もつとも、この活動狂グループも、大きく分けると、アマチュアとプロフェッショナルの二つに分けられた。

アマチュア活動狂は、映画の魅力にとりつかれて毎週何回か映画館に通いつめる生粋の活動狂。それは学生もあればサラリーマンもあり、いずれも身ゼニを切つて映画を観る、その批評や感想文を新聞や映画雑誌に投書する。それが高じてくると、自ら同好の士を集めてファン・グループを作り、騰写版刷りや石版刷りの映画雑誌を発行した。写真版など手がとどかないでの、器用な同人が俳優の似顔絵など描いて表紙を飾つたのもあつた。それが活版刷り出来るように成長でもすると、もうひとかどの活動狂。もともとがアマチュアだ

けに誰れも遠慮のいらぬ言いたい放題。まだ、はたちにもならぬ青二才が、ときには世界的な大プロデューサー、セシル・B・デミルをコキ下ろし、ときには天下の名女優グレタ・ガルボに毒つくかと思うと、また名花クララ・ボウに、まるでわが恋人さながら歯の浮くような讃辞をならべ立てて得意がつたものである。

さて、そこで、この愛すべき活動狂の仲間の顔

ぶれだが、まず神戸を中心のアマチュアだけにしほれば、その筆頭は当時の神戸市立図書館司書橋元正一、貿易商社員喜田一雄、詩人能登秀夫、外國銀行職員岡田鈴石、印刷所工員栗林紅路、中学生の水野溪水、関西学院英文学部の学生だった村上久雄、同中学部生徒宮森喜久二、そして私も甲陽中学生ながらペンネーム「紀夜詩」の名前で参加していた。後にプロフェッショナルに転向していった筈見恒夫（本名、松本英一）も昭和二年から三年ほど我らの仲間に入っていた。

このほか映画館や映画雑誌社に勤めてはいるもの、映画愛好の集いには必ず「ファン」として参加するセミプロまたはプロの活動狂については後述するが、生粋のアマチュア活動狂のリーダー格は橋元、喜田の両名だった。

橋元正一は、さすが図書館司書だけあって博覧強記、何でも知らぬ事なしといわれるくらいの知識の持ち主だった。たとえ、その場で十分な答えが出ないことがあっても、お手のものの図書館資料で調べ上げて、たまに正解を持つてくる早業には一同舌をまいたものである。

喜田一雄は貿易商社勤めの忙務の中で、よく映画を観、音楽会にもよく顔を見せた。直情径行、

丸い運動場も四角に歩くといわれたほど几帳面な性格だけに映画評論も理詰めできびしかった。昭和三年「文芸公論」三月号に載つたある映画評論家の一文に対し憤然、彼は「アメリカ映画は果して堕落したか」という反論を「映画邪道」誌に掲載した。この反論はマキアベリーやニーチェからはじまり米国社会のデモクラシー、ブルジョアジーに言及するという六〇〇〇字を超える大論文で話題をまいた。

これら活動狂花やかなりしころから既に五十余年、もちろん当時の青少年たちも老境に入り橋元、喜田の両人は亡くなつたが、彼らの活動をつづけている一人に詩人の能登秀夫がある。彼は当時鉄道局職員だったが無類の映画好き、とくにアベル・ガンスの「鉄路の白ばら」はじめ「心なき女性」「血と砂」など文芸作品の分析批評は他の追随を許さなかつた。

彼は今もなお元気に詩道に専念、同人二十人と共に月刊詩誌「浮標」を発行、その編集長兼世話人として走り廻つてはいるが、近作（七六年三月）にこんなのがある。

元旦

首をさすつたら

首はあつた

来る日

来る日が勝負の六十九才

はや三ヶ月

まだ生きていらるるのが
嬉しい

（以下略）

大声の旅人迎へ。

たい
じょう

丸谷 才一・赤尾 兜子・陳 舜臣

〈作

家〉

〈俳

人〉

〈作

家〉



赤尾 丸谷さんの声は大きいから、今日の講演会場だった農業会館だとマイクはいらないでしょう。
丸谷 文壇三大音の一人、なんていわれましてね。

★B29の爆音にも負けない大声で

大きな声の丸谷さんは、今日の日本語のあり方に対し
ての文部省批判になるとさらに声を張り上げる。そんな
丸谷さんと旧知の仲、昨年「敦煌の旅」で大仏次郎賞を
受賞した陳舜臣さんと、俳人の赤尾兜子さんと三人で座
談会を企画、大いに談笑していただいた。

去年十一月九日、小学館主催の文化講演会で芥川賞作家の丸谷才一さんが来神。「日本語を生きる」を講演。
——二十数年前、国語改革が行われた。新カナづかいや
漢字制限を軸として国語規制をした。ところが今、その
弊害が現われ、現代の日本語のあり方が問われている。
それが現代の日本語ブームを生んでいると思う。(漢字
がなくて子供の名前がつけられないこと、ローマ字の使
用がやたら多いことなど例をあげ)元来、言葉は歴史的
な継続の中でこそ意味を持つ……。現代の日本語は、非
論理的で醜悪で冷たくギスギスしている。今の日本語は
いやだと思う。しかし、使わないわけにはいかない。使
いながら、きれいな日本語を、美しくて機能的な強いも
のにしていかなければならない。難しくてつらいことだ
が一国民の言語生活だということを考えると、やりがい
のあることだと思う。

大きな声の丸谷さんは、今日の日本語のあり方に対し
ての文部省批判になるとさらに声を張り上げる。そんな
丸谷さんと旧知の仲、昨年「敦煌の旅」で大仏次郎賞を
受賞した陳舜臣さんと、俳人の赤尾兜子さんと三人で座
談会を企画、大いに談笑していただいた。

陳 他の大声は開高健さんと井上光晴さん。で、開高さんいわく「俺の声はメロディアスだけど、丸谷さんはノイジーだ。できの悪い生徒をどなつてた声だ」つていましたよ。

丸谷 いつだったかイギリスの女流作家のアイリス・マードックという人が、ペイリーっていう偉い学者のご主人と一緒に来日しましてね、その時、彼ら夫妻と野間宏さんと私と、四人で座談会をやつたんですよ。いろいろ難かしい、易い文学論をひとしきりやつた後で、野間さんが三大音の話を始めた。丸谷は日本三大音の一人である、というような話ををして、それであと二人は誰と誰とであって、この三人は全く同じ世代であって、戦争中に少年時代を迎えた。つまり彼らは、少年時代、B29が爆弾を落とす、その爆音にさからいながら、友だちと文学と人生について語りあつていた。話をするには爆音に打ち勝たなければならなかつたので声が大きくなつたのである、というようなことをあの重厚な野間さんが語つた。通訳の女性が横にいたんだけれど、あまりバカバカしい話なので通訳しようとしている。すると野間さんが、通訳しろ、通訳しろと催促するんです。彼女は仕方がないから、日本の文学者の名譽のためにならないとは思ひながら通訳したんです。そしたらマードックとペイリーは喜びましてね。野間さんがその日に話したなかで一番に受けたのがこの話でした（笑）。B29以上の声を張り上げて文学と人生を論じるなんて大げさでバカバカしくてイギリス人が好むユーモアのあり方なんですね。

陳 前に講演会で開高健さんと田辺聖子さんと三人で九州へ行った時、田辺さんの声は小さいでしょ、だから後ろの方の人が手を上げて「聞こえません」というと、田辺さんは「前の方が空いてるからいらっしゃい」。その後で開高さんが出て来て大きな声で……（笑）

丸谷 たいへんだな、講演会へ行って聞く方も。耳を澄ませる澄ませ方の調節がたいへんむつかしい（笑）。

田辺聖子さんはね、何とかいう小説で私の生れた町、

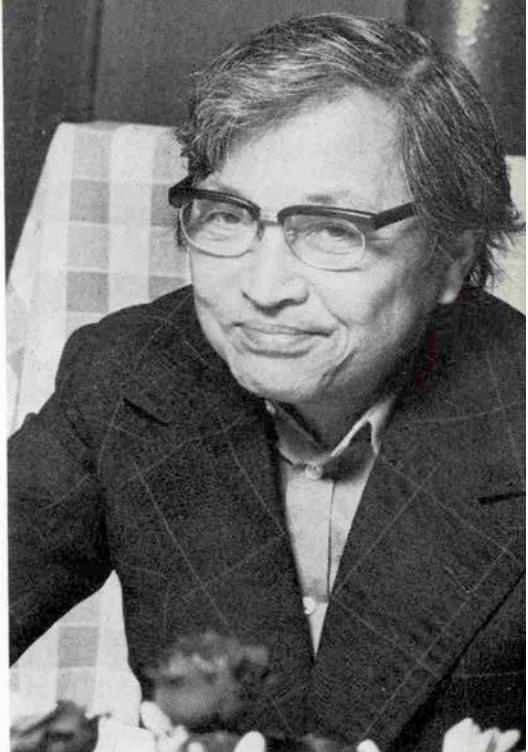
山形県の鶴岡のことをお書きになりましてね。人妻がよろめきの恋愛をして、男と二人で旅行に出でて東北へ行く。そして偶然に降りた町が鶴岡というひびた城下町で、この町が実にいい。そこでいろいろ遊んで……っていう

小説ですね。朝日新聞に連載の小説でして、やたらに鶴岡の町を褒めるんですよ。朝日新聞の学芸部はその原稿を受けとった時、これだけ褒められたら山形県の鶴岡って町は田辺さんの銅像を建てるにちがいないと思った。掲載されたらたいへんな騒ぎになり、お礼の手紙が朝日新聞あてに殺到するんじやないだろうかと評判したんだそうです。ところが感謝状は一通も来ない（笑）。朝日の学芸部がおかしいなって思つてはいるがハガキが一通来てそれには「せっかくの静かな城下町があの小説のせいで観光客が多くなって騒がしくなると困る」と書いてある。朝日新聞の学芸部の記者が僕にいました。「やはり丸谷さんの生れた町は變つてますねえ」（笑）

ところがそれからしばらくして、市政三十年とかで、田辺聖子さんと直木賞作家の藤沢周平さん、彼も鶴岡の出身なんですよ。三人で講演をたのまれまして、鶴岡で喋つたたんだが、田辺さんは大変な人気でした。心では感謝していないながら、感謝状は出さないっていうのが私の生れた町の気質んですよ（笑）。

陳 東北の人は本当に反応をみせないね。今東光さんと新田次郎さんと三人で講演会を行つた時、新田さんは持ち時間の半分喋つて半分は質問に答えるつてふうにしてたんだけど、いくらしても質問がない。全然反応がないんだけど、やっぱり今東光さんはえらいですね、笑わせてるもの。

丸谷 東北で人を笑わせたらそりやえらいですよ。僕はいつだったか八戸に講演を行つた時、ちょうど立教大学の英文科の助教授が女の子を殺した事件の直後で、その講演会の司会者が「国学院大学で助教授として長く英語を教えられ……」つて私のことを紹介しましてね、そこで僕が出ていて「先程、国学院大学で長く英語の助教



陳舜臣さん

陳 あ、そうですか。

丸谷 懐疑的な口調だな。そうなん

ですよ（笑）。

陳 はにかみやは……開高さんだつたかなあ……。

あるか……いや、そうかもしませんね。

陳 彼はね、講演の前にになると下痢をするんです。神経性の。

丸谷 たしかにはにかむことがひどいのかもしれない。

そのかわり充分にはにかんだ後のひらきなおり方がまたひどいよね（笑）。だから、一般に、ちょっとお酒を飲んでから講演ってのがいいですね。

陳 そうですね。あんまり飲みすぎるといけないでけどね。

丸谷 全くの素面での講演ってのは僕はつらいなあ。座談会や対談もそうですけどね。

陳 野坂さんはだいたい酔つてゐるね。

丸谷 彼はもう、強いもんねえ。僕が水割りで飲むところを、彼はオンザロックをダブルで飲むでしょ。ちがいりますよね。

陳 野坂さんと東北へ講演に行つた時ね。井上ひさしさの三人で、ちょうど井上さんの失踪事件の直後でね、上野で汽車に乗つた時から食堂車で井上さんを慰めるわやつぱり笑い声ってのは話のつなぎになりますね。

丸谷 そうそう。やはり、講演ってのは座談の大仕掛けなものみたいなところがあるでしょ。だからお互いに親密感があつて講演するのと、なくて講演するのとではず

授を勤めたというご紹介でしたが、私は不幸にして遂に一人も女子学生を殺しませんでした」って始めたんです。ところが満場シーンとしている（爆笑）。その時の具合の悪いこと（笑）。

陳 やっぱり笑いがあつて、タイミングをとつて次をいふんだから、そのタイミングで笑いがなかつたらまらないわけですよね。

丸谷 瞥頭のぶつけ方としてはうまいことをいつたと思つたんですけどね。全然ダメでしたね（笑）。

陳 いやまあたいたいしたことは……。この頃は旅行談ですね。中国へ行つた話。旅に想うてな題でね。昨年は中國へ行つてない。ところが中国へ行つて、帰ってきてから帰国談としての講演の予定もあつたんですけど、地震があつて行けなかつた。その予定してた講演会では始めに、「実は今日の講演は中国へ行つての帰国談というはずでしたのですが……」っていうと笑いがあるんですね。やつぱり笑い声ってのは話のつなぎになりますね。

丸谷 そうそう。やはり、講演ってのは座談の大仕掛けなものみたいなところがあるでしょ。だからお互いに親密感があつて講演するのと、なくて講演するのとではず

いぶんちがいますね。もともと、どうも僕は人見知りするたちなんです。陳さんとは昔からお近づきいただいてるし、最初から話し易かつたせいがあつて、こういうふうに楽に話できるんですがね。実は人見知りするんです（笑）。

いぶんちがいますね。もともと、どうも僕は人見知りするたちなんです。陳さんとは昔からお近づきいただいてるし、最初から話し易かつたせいがあつて、こういうふうに楽に話できるんですがね。実は人見知りするんです（笑）。

い。

丸谷 ウイスキーを二杯とは彼としてはたいへんことですよ。

陳 こつちはいくら飲んだかわからん（笑）。

丸谷 慰められる方よりも慰める方が積極的に飲まないよね（笑）。

陳 ちょうどあの時の講演の順番がね、井上さんは地元であり、失踪の後だからスターでね（笑）、そして野坂さんは唄うし、というわけでこの二人が終わって僕がト

リだとみんな帰ってしまうので、僕は真中にはさんでくれつていつて、そうしたんです。はじめは年令の順だから僕が最後になるんだっていうので、「いや、それはひどいよ。野坂さんの唄を聞いて井上さんの顔を見たら、みんな帰ってしまっていなくなる」っていつて真中に入れてもらつた。

丸谷 僕も一番最後にやるのってくらいなんです。ほら五木寛之さんの顔をみたらみんな帰ってしまうなんてことがあるでしょ。

陳 五木さんと一緒に時は困るね。

丸谷 非常に残酷だよな、我々に対して（笑）。我々のようないいを五木さんに味わせる新進作家が早く出てこ



丸谷才一さん

★芭蕉は相当な田舎者

赤尾 私が青春時代初めて文学に魅かれたのは横光利一からなんです。たくさん全集が出るこの頃、横光利一の全集が出ていないし、伊賀の出身であることも、俳句のことも知ってるんだけど、私が関心を持つてるのは、丸谷さんが山形県の出身であるということ何か関連があるよう

なくちやいけない（笑）……不公平だよ（笑）。

赤尾 僕が一年病気をしてた時、五木さんが取材の関係もあって僕の家に来てくれたんです。その時、僕は彼と二階で話ををしてて、家内は一緒にはいなかつたんですが、彼が帰つた後で「五木さんって素敵な人だと聞いてはいたけれど、あんなに素晴らしい男が日本にいたなんてしらなかつた」なんていいだした。

丸谷 困るね。

赤尾 それから四、五回いわれましたよ。

丸谷 不愉快な話になってきたな（笑）。……陳さんの分も僕が代弁したんだけど（笑）。

赤尾 それからしばらくして、五木さんが新聞の随筆に髪を長い間洗わないって書いています。これを読むと普通なら五木さんのことを失望するんだけど、家内は「どうして五木さんはあんなことを書いたんだろうか。あれは惜しいことを書いてしまっている」ってまだ弁護している（笑）。

丸谷 かなり恨みは深いね。そこで俳句は作らなかつたんですか。その事件のショックで。

赤尾 これは散文的次元ですね（笑）。こんな時僕は、句はできませんね。

丸谷 散文的とお考えになつたのは巧妙な処理ですね。

な気がするということなんですが。

丸谷 横光利一の奥さんは私が生れた町、鶴岡の生れですね。

そのせいでしょ、家に本があった。地方の医者の家ですから、その町のちよつとした家の娘が一流作家の奥さんになつたりすれば少しはその作家の本を買うでしょ。私の家は決して文学的な家ではないんだけれど、たとえば『寝園』とか『春園』とか『機械』、それから『書き方草子』なんという本がありました。それぐらいしかなかつたみたいです。つまり夏目漱石以後の日本的小説家の本で家にあつたのは横光利一。他には林美子がありましたね。

陳 よく覚えてるね。

丸谷 『放浪記』と『三等旅行記』ってのがありました。それは僕の姉が買つたんだろうと思うんですが、横光利一もそうかもしません。そんなわけで家族が関心を持つようになるんですね。それで私も横光利一って小説家に関心がありました。それに、今でも僕はやはり注目すべき小説家だと思いますね。殊に『上海』と『寝園』がいいんじゃないですか。それと『家族会議』って小説。『日輪』なんかもおもしろいと思いますね。

陳 上海のストライキを描いた場面はちよつとした筆ですね。

丸谷 やはりそうですか。私はね、上海の実体というかあの事件の、オリジナルであるところの上海を見たこともないのでわからないのですけれど、陳さん、『上海』はお読みになつておもしろいですか。

陳 あのストライキの場面はすごいと思いましたね。

丸谷 上海としてはおかしくはないんですか。

陳 全体としてはちよつとね。だけどディテールで完成しましたよ。

丸谷 歴史を捉える力はちよつと弱いかも知れないと感じはあるんですが。

赤尾 これは丸谷さんに対する暴論かもしませんけど、丸谷さんの横光利一との出会いを聞きましたが、芭蕉との比較でね、芭蕉つてのは、僕、今見てる限りでは簡単にいいますと相当な田舎者ですね。もちろん文学者として、俳句としてのレベルは実に高いところにまで高めましたので、僕はあれで俳句の形というものをほとんど作つてしまつたとは思いますが、しかし、芭蕉というお、お、さんはね、田舎者のおいが芭蕉を全部読むとありますね。丸谷さんは東北の出身でしょ。僕は実は、東北は東京より北へは行つたことがないんです。だから僕にとっては外国に近いですが、横光利一も、一方ではたいへんなモダニストであつても、モダニズムは表現の問題でして、やはり根は相当な田舎者という感じがするんですよ。

赤尾兜子さん

丸谷 私のことはわからぬでけどね。モダニズム文学というものは日本では都会出身者によつては為されなかつたという面はありますね。例えば、堀口大学が越後の出身、西

脇順三郎もやはり越後、要するに昭和初年のモダニズム

文学つてのはこの二人でしてね。新潟を東北に入れてしまふのはおかしいにしても、東北にほぼ近い。で、この二人のことからいつても、新潟県のある町から東京を経ないでいきなりベリとかロンドンとかに行ってしまうといふ傾向があるんですね。つまり右大臣実朝が一度も京都に行つたことがなくて、いきなり宋へ行く船を作つたという心理に似たものが地方在住の文学者にはある。その心理はごく普通のことじゃないでしようか。

赤尾 萩原朔太郎と室生犀星とが出会いますね。これだつていわだ地方人の出会いですよね。

丸谷 泉鏡花のたいへんな江戸趣味つてのは、要するに金沢に住んで、雪の中で考えた江戸なわけなんですよね。あんな芸者というものは実際には一人として東京にはいなかつた(笑)。

陳 僕は昨年敦煌へ行つてね。そこには三十五メートルの弥勒菩薩像があるんですね。奈良の大仏の二倍です。奈良とか敦煌とか、またバーミアンには五十三メートルの石仏があつて、みんな田舎で作つてゐるんですね。ところが当時の世界の中心である長安にはそんな大きな大仏はないんです。

丸谷 あつ、ないんですか。それはおもしろいな。

陳 あんなデッカイのは作つてない。

丸谷 文明の意志つてそんなものなんですね。これは非常におもしろいな。

★だけどやっぱり芭蕉つてのは大きいですよ

丸谷 安東次男さんが歴程賞を受賞をしましてね、そのお祝いの会をやつたんです。石川淳さんと大岡信さんと私と四人でやりまして、発句が正客ですから安東次男で

「火祭りも済んだる秋の蘭を煮る」

赤尾 なかなか手の込んだ句ですね。

丸谷 受賞式が終わつたんで原稿を書いてる句じやない

ですか(笑)。

赤尾 今の解釈は……(笑) 蘭を煮るをそういう風に解釈しますか。僕はかなり抽象的なほうへもつていうこうとしましたからね。安東次男さんはあんまり抽象的な俳句はやらない人ですが……。

丸谷 僕はそういう風に解釈してつけたんです。「花野を帰る河内あきんど」

赤尾 僕もこんど東京に行つたらその連句の仲間に入れてもらいたいですね。

丸谷 何度もやつてるんですけど、その時は二時から始めて六時くらいまでに十二句。

赤尾 流火宗匠(安東次男)はきついでしょ。

丸谷 僕のつけた句にはむやみにきつくって(笑)。

赤尾 僕は安東次男さんは俳人として、俳文学を含めてこわい人の一人ですね。

陳 俳人というものは俳諧的生活をしないといけないですね。

赤尾 そこまでいわれれば、そこまでしなければいけませんのですけどね。(笑)。

丸谷 文士的生活つてのは型が決まらないし、理想がないけど、俳人というものは理想がありますよね。つまり偉い人がちゃんとほつきり一人いるんだもの。

赤尾 芭蕉という典型が見事にいます。

丸谷 ああいう人が一人いると、樂つていえば樂だけれど、こわいっていえばこわいですね。

赤尾 僕なんか樂どころか、こわいというか、たまらんですね、もう。だから芭蕉を田舎者だといいたくなるんです。『五月雨を集めて早し最上川』って句がありますが、あれはやっぱり現地に行かないことにはわからないですか。

丸谷 そんなこと、ないでしよう。僕は最上川の本流のほとりで生れたのではなくて、支流の方だからあんまり本流の方は知らないんです。最上川で思い出したけど、最上川を詠んだ歌のなかで僕が一番感心したのは、今の

天皇が山形県を旅した時の歌で「広きの流れゆけども最

上川 海に入るまでにござりけり」。僕はこれはいい歌だと思つたら折口信夫さんが絶讚してゐるんです。たしかにいいと思う。つまり國ほめの歌なんですがね、いかにも國ほめの歌らしくゆたりとした調子があつてね、大味でめでたいといえめでたい。普通の人間では詠めない。この歌のそばにおくと茂吉の歌ですらなんだか小さいつ感じがしてしまふんですよ。この間「日本文学史はやわかり」っていうのを天皇の歌を中心にして書いたんですけど、和歌つてものは天皇が詠んだ時が一番良くなるつてことがあると思うんです。後鳥羽院が歌を詠む、同じ調子で同じところをねらつて、当代隨一の歌の名手藤原定家が歌を詠む。もちろん藤原定家の方がうまい。うまいけれどもなんだかひとつガラが小さくなる。そのところに気がついた人がいて、それではどうするかって考えた時に発句つてのが生れたんじやないかと思う(笑)。これなら天皇には詠めない。天皇をしのぐことができるものつてのを芭蕉が考えだしたのではないかと思うのですけどね。たとえば加賀の国で曾良が句を詠んだら、芭蕉がその句が小さいつて叱るんですね。大國には大國のふうがあるって。加賀の国は大國なんだから大國にふさわしい句を詠めてね。そういうことを芭蕉つてのは、私がさつきいつたようなことを考えていたんじゃないかという気がするんですね。だから「荒海や佐渡によこたふ天の川」って句が詠めるんだと思うんですよ。

赤尾 芭蕉は中国の杜甫の詠みにたいへん力を入れ、尊敬もしている形跡がありますね。杜甫は何といつてもガラが大きいですからね。そのガラが芭蕉にたいへん影響したみたいですね。

★小説家は憶面もなく恋の句が

ローのつけは良かつた。

丸谷 ああ、あれね。あれは表の六句がすこぶるもつともらしく続いてきましてね、その六句目が「ひくにひかれぬ邯鄲の脚」っていう石川淳さんの句で、これはなかなかしやてるんですが、それでもむずかしい。そこを一つ、景気よく羽目をはずそうという心だつたんです。で、第六句を東京に出てきてしがない暮しを送つていて文学青年と見立てて、「モンローの伝記下訳五万円」とやつた。

陳 これはおもしろいよ。

丸谷 そうしたらね、悪評噴噴でしてね。でも、悪評する人であればあるほどおもしろがる(笑)。僕はあの時に俳諧師であるよりも司会者みたいな気持ちで、ここでみんなを笑わせよう、気楽にしよう、座を持とうと思つてつけたんです。後で考えてみるとそれこそが俳諧師の精神だつた。

赤尾 そうですね。結局そうですよ、座をもつてのは俳諧師最高の精神ですよ。このごろ忙しくて文人句会もなかなかできませんね。

陳 またやりましよか。

赤尾 関東に対して西も歌仙まきましよか。

丸谷 陳さん、せつたいた歌仙を巻きなさい(笑)。といふのはつまり、歌仙まくと、小説家は優位に立てるんです(笑)。ことに恋の句になると俳人はダメなんです。派手な恋の句なんてつくれない。ところが、小説家は憶面もなしに恋の句が詠めるんですよ(笑)。これは不思議なものでして、日本小説の伝統のせいでしょうかね。何か憶面もなくねベッドシーンなんか詠めるんですよ。まして陳さんにはもう一つの憶面もない小説、「金瓶梅」や「覺悟禪」の伝統があるんだから(笑)。

赤尾 ところで歌仙の発句作ってきたんですよ。丸谷才一さんの名前を読み込んで。

赤尾 丸谷さん、いつだつたかの連句でのマリリンモン

赤尾 だから受けていただかない。『才一』という旅人

とあり小六月」としますか「才」という旅人迎え小六月」としますか。

丸谷 それはちょっと僕、気に入らないですね。申し訳

ないんですけど、才一じやなくて面影付にしましようよ。

「大声の旅人迎え……」というようなのもいいでしょ。

赤尾 じゃ発句は「大声の旅人迎ふ神無月」。あと、つ

けてください。

丸谷 ちょっとと考えさせて下さい。（笑）。



酔うほどに連句に熱が入っていく

陳 大声の……ってのは「タイジョウの……」って読んだ方がいいみたいですね。

丸谷 それがいい。俳諧学者としての陳さんの立場を認めよう（笑）。「牛を食つて秋におくる」ってのはいかがですか。私の号は、西亭なんですが、サイティと読む人がいるんですよ（笑）。セイティって読んでくれと頼むんですがね。

赤尾 牛と秋の声とがよく響いてる。ところが、次の私のうけは「寄る三人に肉も霜降る」って考えてたんですよ。肉が出てくるのでこれはストップ。

丸谷 お考えなさいよ（笑）。僕だって考えたんだから。

赤尾 連句は厳しい。肉が出せなくなってしまった。

丸谷 「その句、手帳なり」ってのが芭蕉にありますね。

芭蕉の弟子たちも、ここで出そうと思つて手帳にメモつてるんですね。そのくらいのカンニングは考えますよね。すると芭蕉は「その句、手帳なり」って見破つた（笑）。

赤尾 「秋におくるる」か。つらいなあ（笑）。

丸谷 名詞止めにしたいなって気があつたけど、赤尾さんが名詞止めだからな。

編集部 丸谷先生、連歌つてのは待つたなしですか。

丸谷 考えている間にいろんな話をすれば待つたになるんですよ。おもしろい話をして喜こさせてれば。

編集部 前の句を訂正させることはできるんですか。

丸谷 もつともだと納得させる理由さえつけばできます。連歌のルールは一つしかない。宗匠をたてることが多いです。つまりとっても政治的なもんなんですね。もうこの総理大臣はダメだと思うまでは新聞は総理大臣をたてるでしょ。だから新聞読んでもまだ三木内閣は続きますですね。それですよ。

赤尾 「木の葉髮 寄る三人に鶴渡る」。ちょっと字余りですが。

丸谷 いや、なかなかいい句ですね。現代俳句と江戸俳諧のちょうど間ぐらいでですね（笑）。

赤尾 神無月より小六月の方がおもしろいですか。

丸谷 神無月と旅人との関係はおもしろいけど、小六月つて言葉、きれいですね。

赤尾 小六月つてのは小春日和といつしよで、始めは「小春かな」つてしようと思ってたんだけど、小六月でないとしまらない。

丸谷 きれいでですね。この旅人が僕じゃないみたいにきれいですね（笑）。

この後、連句は場所を変えて次のように続く。

大声の旅人迎ふ小六月

牛をくらつて秋におくるる

木の葉髪寄る三人に鶴渡る

夜もすがらなる牌のざわざわ

春月に杯おかぬ李白ぶり

杜甫のそそぎしぐくき泪か

恋文のほごで風呂たく彼岸過

(酔がまわるにつれて)

堀の外にて睦める異人

木枯に猫のちぢめる日向かな

票のゆくへに悩む半日

春の閨匂ひかぎ合ふ裾袂

花の下なる猫のくらやみ

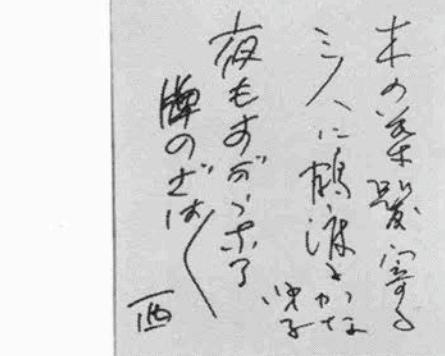
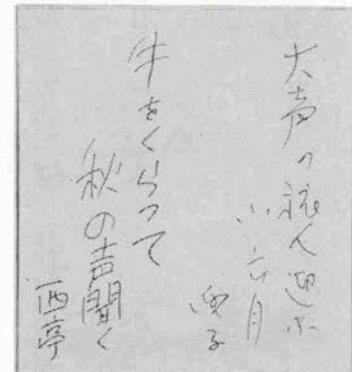
唇塗るなれ艶のなかに乙女立つ

和尚無学で経だけはよむ

ほととぎす養子になつて五十年

翁は秋の影によろめく

△ムーンライトにて▽



兜子

西亭

兜子

●伊東式の〈立体裁断〉

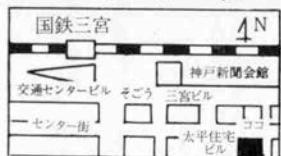
アトリエ戸塚と
戸塚敏衣服研究所が
新しい装いのビルで(太平住宅ビル4F)
1977年の春を迎えました。



高等科の実技風景

- 基礎コース
 - プロデザイナー
コース
 - 奥さまコース
 - 製図専科

所長 / 戸塚 敏



〒651 神戸市蘿合区御幸通6ノ1ノ22太平住宅ビル4F ☎221-6268
251-2355

きものと細貨

おんがらゑ



神戸	本部・仕入部	神戸市東灘区青木五丁目一五一一九	電話〇七八一四五一五二九〇(代)
本店	市街地改造により工事中	昭和五十二年末完成予定	
さんちか店	神戸市生田区三宮町一丁目一	電話〇七八一三三一一七〇〇	
銀座コア店	東京都中央区銀座五丁目八一〇	電話〇三一五七三一五二九八(代)	
	(四階きものコア)		
渋谷東急店	東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一	電話〇三一四七七三四〇九(直)	
日本橋東急店	五階和装名品街	電話〇三一二一一〇五一一(代)	
	東京都中央区日本橋通り一丁目九一	(内線一九四)	
	(四階和装名品街)		
池袋バルコ店	東京都豊島区南池袋一丁目一八一	電話〇三一九八七〇五六一(直)	
(四階きもの小路)			